

## 4 御堂筋の道路空間の検討をすすめるにあたって

### 4.1 緩速車線を閉じた場合の交通影響について

交通マイクロシミュレーションを実施し、御堂筋の交通容量が低下した場合の交通状況と、対策実施時の交通状況を把握した。この結果、淀屋橋～難波の緩速車線空間を利用した場合、緩速車線の停車車両が本線に停車すると想定した最悪のケースは梅新南～難波の平均通過時間が約 44 分となり、現況約 13 分に対して約 31 分増加となる。

しかし、停車帯及び右左折レーン(緩速車線の一部区間存置)を設置した場合は約 16 分と現況と同程度となり、対策実施によって混雑は緩和し、課題は改善されることが期待される。

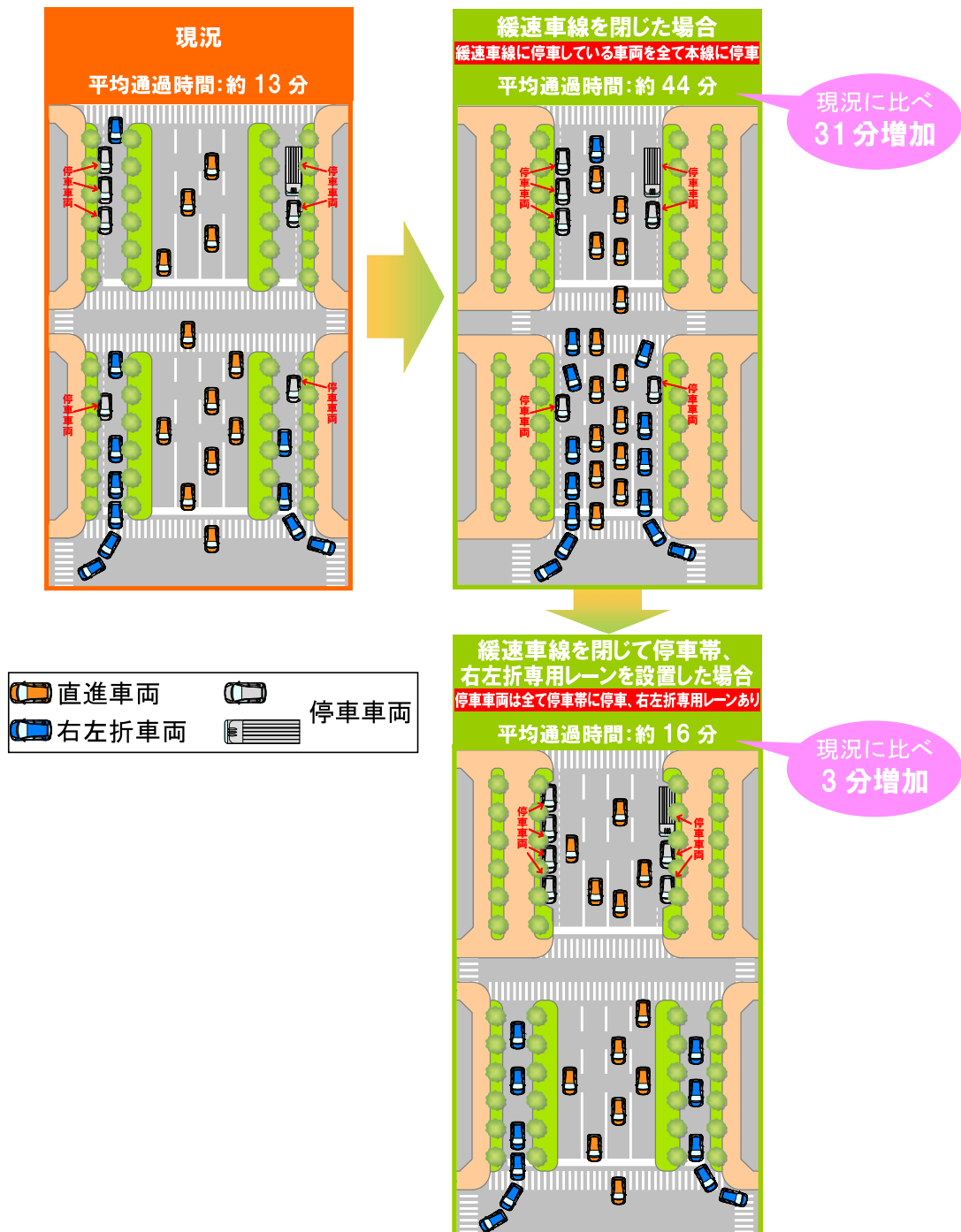


図 緩速車線を閉じてゆとり空間とした場合の課題の認識